2021年度 岐阜県山県市遠隔地研修
報告書

本研修の目指すもの

本研修は、山県市中級者保育者を対象として、これまでの保育を振り返り、今後の保育実践に活かすことを目標としたものでした。特に今回の研修のテーマは、『「ねばならない」、「べきである」からの脱却』とし、ここまでやってきた保育が自動化され、呪縛していることから「問い直し」を行うことで、保育を始めた頃のフレッシュな気持ちに戻り、より良い実践を行っていくことを目標としました。

本来保育者は、子どもの自発性を大事にすることが実践として重要ではありますが、経過とともに、「保育者として何かを教えなければならない」という固定概念が染みつき、研鑽しないようになります。そこで本研修では、自身の何が自身の行動にブレーキをかけているのか、自身や他者から学び直していく作業を行い、ゼロから考えなおすことに重点を置き、実施しました。

最終的には、保育の原点である「おもしろさ」を取り戻し、山県市を支える素晴らしい保育者への変容を起こすことを、本研修の目標としました。

講師ご紹介

一般社団法人 もあなキッズ環境教育研究所
理事長　関山　隆一

1971年神奈川県生。1998年ニュージーランドに渡り国立公園にて現地ガイドとして働く。その後パタゴニア日本支社を経由し、2004年に帰国後アウトドアオペレーターの事業を立ち上げ、2007年NPOもあなキッズ自然楽校設立。2009年に森のようちえんスタイルの保育園を開園。0歳児から小学生までの自然体験活動を実践している。

NPO法人 もあなキッズ自然楽校　理事長
NPO法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟　副理事長
東京都市大学　人間科学部児童学科　非常勤講師

研修先のご紹介

NPO法人もあなキッズ自然楽校

横浜市を中心に自然体験活動を通じて人と社会を作り出すNPO法人です。
子どもたちを中心とした活動を通して、社会性を持ち創意工夫しながら主体的に行動することができる「未来を創る」子どもたちを育成します。
健全な子どもたちの育成と、自然環境や社会問題に対する活動を通じて、持続可能な社会を築き上げていくための社会貢献を目的としています。

現在、横浜市都筑区内で4施設(横浜保育室(0~2歳児)、認可保育所(0~5歳児)、認可外保育施設(3~5歳児)、放課後児童クラブ(学童))、西湘・湘南エリアで3施設(小規模認可保育所(0~2歳児)2施設、企業主導型保育施設(0~5歳児))を運営し ています。
また、小学生をメインターゲットとした、自然体験活動の企画・運営も行なっています。

NPO法人もあなキッズ自然楽校
HP
http://moanakids.org/
Facebook
https://facebook.com/moanakids
お問合せ
info@moanakids.org

2021年度　遠隔地研修

参加者

岐阜県山県市の公立保育園保育士：5名 (園長2名・副園長1名・保育士2名)

日程

①事前研修　2021年10月13日（水）
　　場所：岐阜県山県市役所内
②実習研修　2021年11月8日（月）～12日（金）
　　場所：横浜（もあな保育園・めーぷるキッズ・めーぷる保育園）
③事後研修　2021年12月16日（木）
　　場所：岐阜県山県市役所内

実施内容

①　事前研修（山県市役所内）

実習研修に入る前に、事前研修を行いました。まず最初に、各保育者に対して「ヴィジュアル・ナラティブアプローチ」という手法にて、心理的ワークショップを行いました。1.働きはじめ、2.現在、3.未来という時制におけるイメージを描いて発表（イメージドローイングメソッド）していただくことで、保育者の内なる心理の表出し、また研修への想いを相互に語り合いました。さらに、「森のようちえん」の活動や、その特徴などを伝え、研修に入る上でのイメージを共有しました。

ヴィジュアル・ナラティブアプローチで保育者の想いを語り合う

地域の保育資源について考える

②　実習研修（横浜/NPO法人もあなキッズ自然楽校）

参加者5名が、法人が運営する保育園（もあな保育園、めーぷる保育園、めーぷるキッズ）にて、1週間の保育実践体験・研修を行いました。月曜日から金曜日までどっぷりと森のようちえんの保育を体験していただきました。

③　事後研修（山県市役所内）

横浜の遠隔地研修終了後、その後の実践に変化があったかどうか、ヴィジュアル・ナラティブアプローチのワークショップを行い、実習前と実習後で心的変化が見られたかを考察するため、対話の場を設けました。その上で、これから自分なりにできることを語り合いました。特に今回は、園長も参加したことにより、園全体にも変容があったという報告をいただきました。

ヴィジュアル・ナラティブアプローチによる心的変化
※写真左が実習前、右が実習後

morinos研修

参加者

岐阜県山県市の公立保育園保育士：5名
※主に2019年度遠隔地研修の参加者が対象

日程

①事前研修　2021年10月14（木）
　　場所：岐阜県山県市役所内
②実習研修　2022年1月26日（水）～28日（金）
　　場所：岐阜県（morinos-岐阜県立森林文化アカデミー内）
※研修当日は新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪化したため、中止となりました。

実施内容

昨年度も開催しました岐阜県立森林文化アカデミー内にある学習センター「morinos」にて３日間の研修を行うにあたり、事前の研修を開催いたしました。対象者は、２年前に横浜の研修に参加された保育士を中心に、３年目から１０年目未満の保育士に参加していただきました。研修では、「ヴィジュアル・ナラティブアプローチ」のワークショップを実施し、２年前の研修時と現在の心理の変化を語っていただきました。その後、より良い実践を行う上での話し合いや、地域資源を見つめ直すワークショップを行い、保育実践のブラッシュアップを行いました。

ドキュメンテーション研修

参加者

岐阜県山県市の公立保育園保育士：5名 (中堅保育士5名)
※主に2020年度morinos研修の参加者が対象

日程

2021年12月17日（金）　場所：岐阜県山県市役所内

実施内容

近年、保育におけるＩＣＴ化が進み、ドキュメンテーションを日誌化することに対しての認知が高まってきています。しかし、保育者の事務作業の合理化ということが、一義になってしまう懸念の声もでてきており、慎重な議論がされています。本来のドキュメンテーションの意義は、合理化だけの目的ではなく、子ども達との豊かな実践の経験を担任の保育者だけの知に収めておくだけではなく、園内や保護者にも、その日のエピソードを可視化し、対話するためのツールとして使用することが大切であるとされています。そこで、作成にあたる意義や、ポイントを伝え、実際にドキュメンテーションを作成する体験をしました。

アンケート調査

調査の目的

岐阜県山県市における、子ども、保育における自然環境活用のニーズを調査し、
自然環境を活用した保育が有益であるかどうかを立証する目的で実施しました。

対象者

岐阜県山県市在住の保育園利用者

岐阜県山県市の現状

▼ 保育における現状

山県市では、公立保育園７園、民間認可小規模保育施設１園が保育運営している。
2023 年４月には、公立の２園（富岡保育園、高富保育園）が民営化され、公立保育園は５園となる。その中で美山地区は、みやま保育園、富波保育園がある。
上記美山地区２施設は、老朽化が進み屋根の修繕などをしなければ、雨漏りの可能性も出てきているほどとなっている。人口減少や少子化が進む中、保育園を縮小していく議論も上がってきており、今後の課題となっている。

▼ 地域資源環境

壮大な山に囲まれ、美しい川が流れる自然豊かな地域環境、特に美山地区に関しては、
市の北部に位置しもっとも自然豊かな環境にある。保育園から近隣の川原までは、子どもの足で歩いて１０分程度。また近くには散策のできる森がある。車両を使っての遠足であれば、周囲には自然公園やキャンプ場施設などもあり、自然体験の活動を行うのには、申し分ない環境にある。高齢化が進んでいる中ではあるが、畑や林業を営む人たちの姿もあり、食農や文化に触れる機会もまだ十分ある。その他、神社の神主や農家さんなどの協力も一層行うことが可能であると考える。

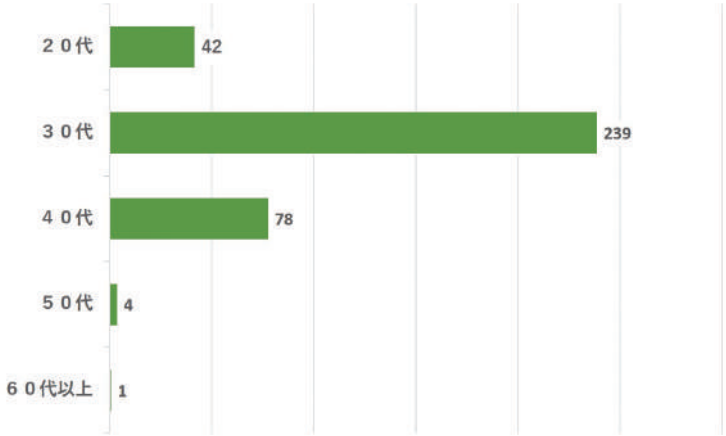
▼ 自然環境を十分に取り入れた保育・自然環境

そこで、地域の自然環境を活かした「森のようちえん」スタイルの保育が、非常に適した地域であると見る。鳥取県智頭町という中山間地にある町では、森林環境を地域資源とした「森のようちえん」スタイルの保育が、発展し、その後移住者が絶えず、現在ではフリースクールができるまでとなった事例がある。山県市においても智頭町同様に、「森のようちえん」スタイルの保育実践を引き金とすることで、その魅力を感じる若い世代が移住するポテンシャルは十分備わっていると考える。

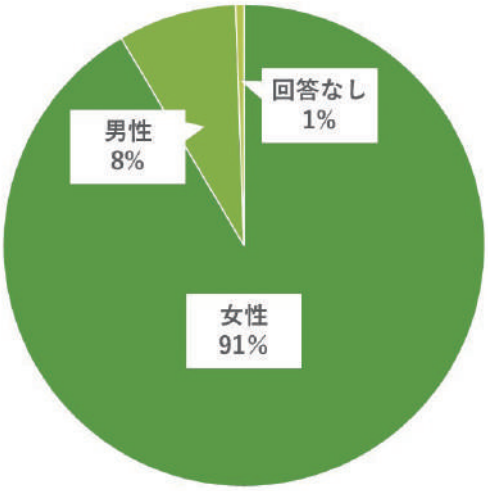
アンケート結果

回答者の属性

【世代】

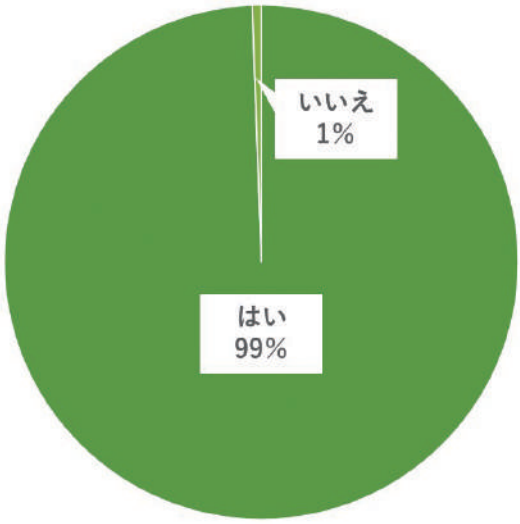


【性別】

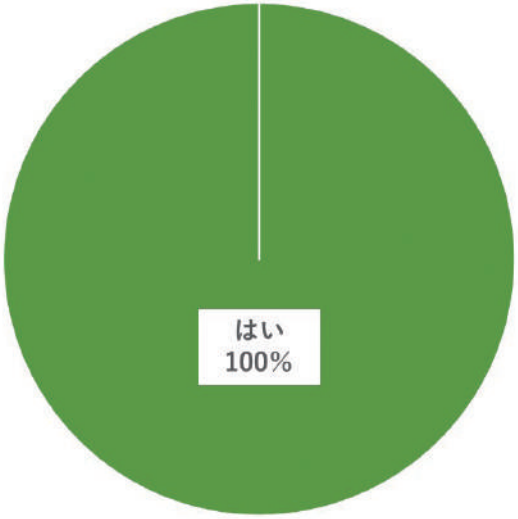


質問と回答

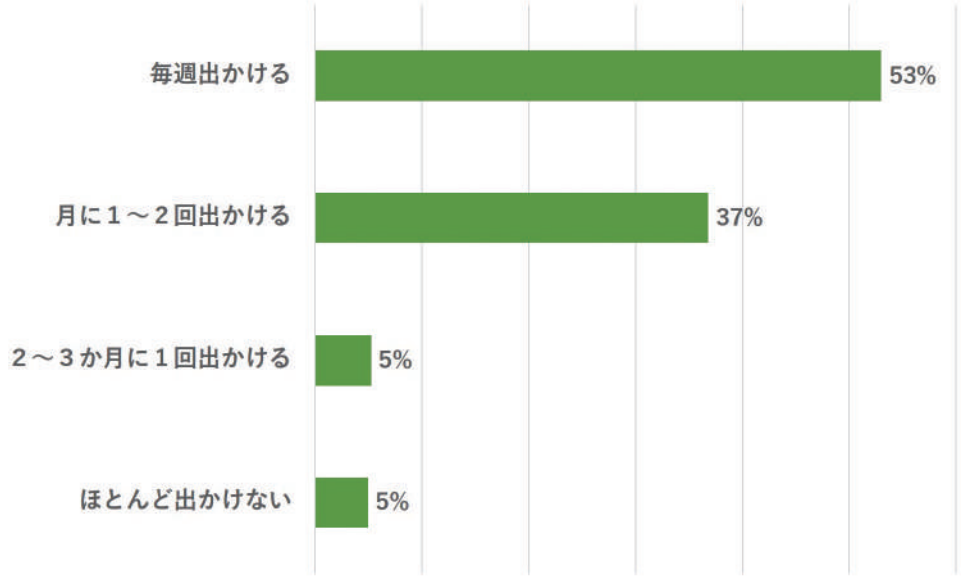
Q1. 乳幼児期の子どもにとって外遊びは必要だと思いますか。



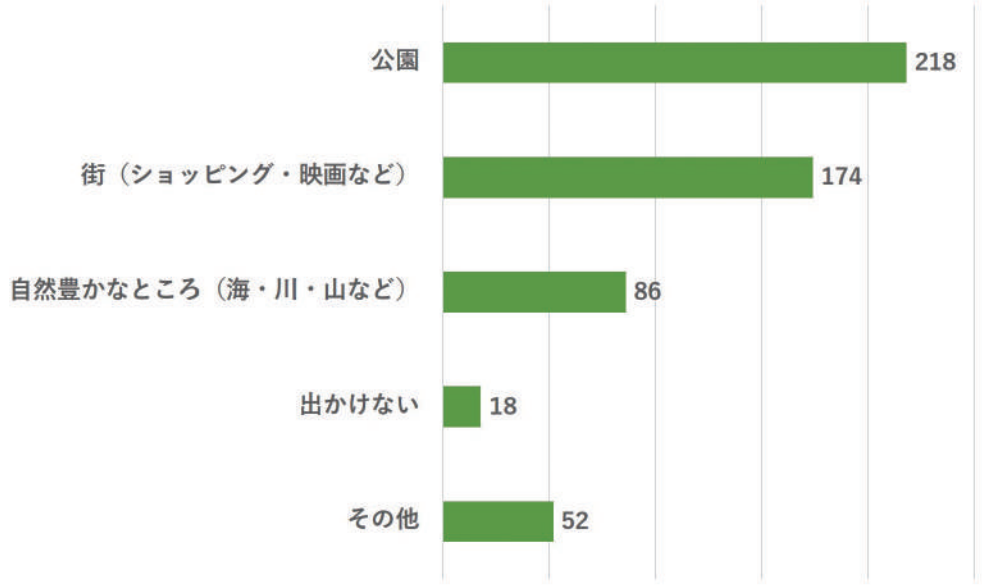
Q2. 乳幼児期の子どもにとって自然と触れることは大切だと思いますか。



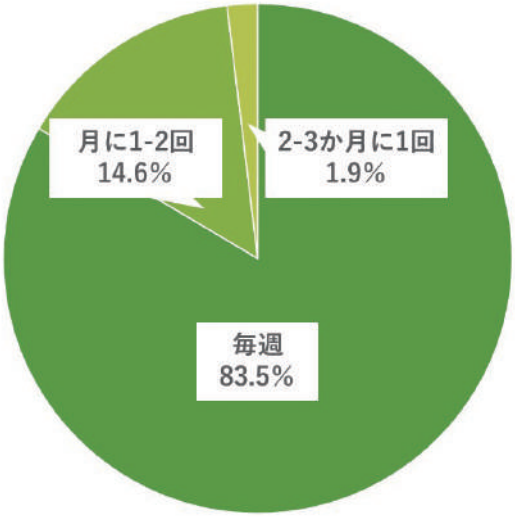
Q3. お休みの日に、家から出て商業施設や近くの公園などにお子さんと出かけますか？
（最も近いものを選択してください）



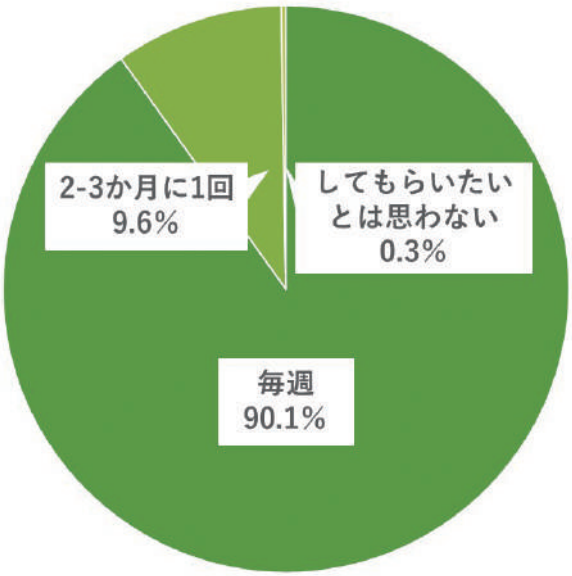
Q4. お休みの日はお子さんとどこに出かけますか？（複数回答可）



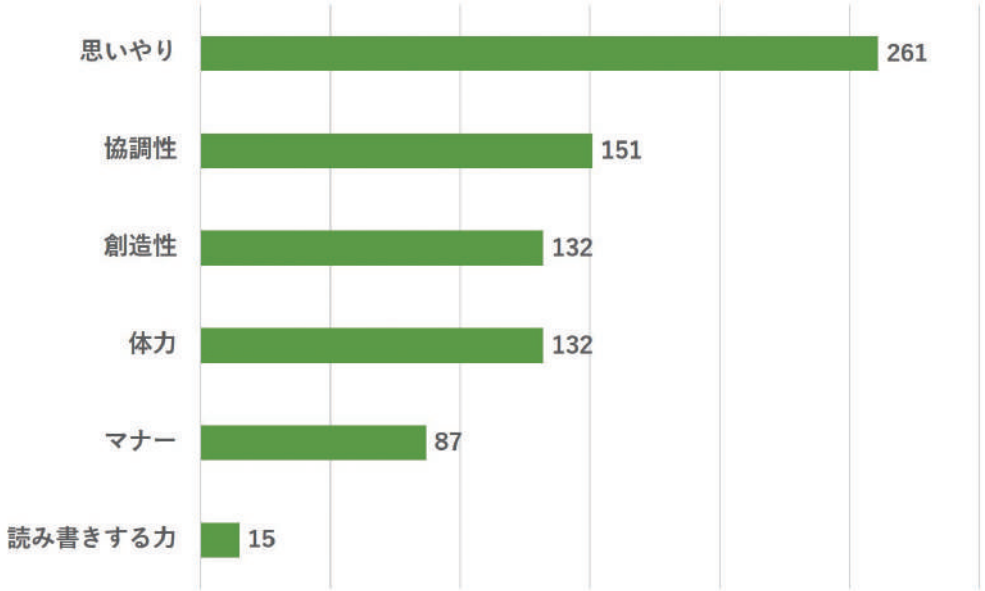
Q5. ご自身は、子どもの頃どの程度外遊びをしていましたか？
（最も近いものを選択してください）



Q6. お子さんにはどの程度外遊びをしてもらいたいですか？



Q7. お子さんに身につけてもらいたいことを教えてください。(2つまで選択)



Q8. 大人になったら、どのような人になってもらいたいか教えてください。(3つまで選択)

アンケート結果に対する考察

今回アンケートにお答えいただいた殆どの方々が、子どもの健全な成長にとって「外遊びが大切」であり、「自然に触れることが大切」であると回答されました。この回答には、子ども本来の成長には、自然に触れ、外遊びをすることが必要であるという認識が非常に高いことが感じられました。左記に関連して、保育園に通われていない週末での過ごし方に関しても半数以上の人が、公園や自然豊かな場所に子どもを連れて行っているという傾向がわかりました。また、自身の幼少期の経験の中で、若い世代のご家族であっても、外遊びの経験がある方が多く、自身の経験から自然に触れる体験に必要性を感じており、高いニーズの結果がでています。さらに、「乳幼児期までに身につけてもらいたいこと」という質問に対して「思いやり」、「協調性」、「創造性」という3つの項目に高い数値がでました。この3つの項目に関しては、「森のようちえん」で育った子ども達に多く見られる傾向でもあり、「森のようちえん」の活動における成長と、親御さんの「なってもらいたい姿」というものがマッチした結果となっています。特に「思いやり」や「協調性」というのは、昨今注目されている「非認知能力」の中で代表する項目であり、「非認知能力」は、「森のようちえん」のような自由な環境での遊びを通して身につくとされています。

研修を終えて

今年で3年目を迎えました山県市の遠隔地研修。ここまで自分たちの保育実践に関して、立ち止まる機会も少なく、目の前の保育に精一杯であった保育者にとって、この研修は大きな好機になったのではないかと思います。実際、山県市の保育者たちの中に潜在していた「よい良い保育をしたい」という思いが、研修とともに少しずつ顕在化してきました。そして、「より良い保育」ということを考えるにあたり、地域資源の活用や、自然を活用した保育が実践を豊かにするために重要であることに気づき、多くの発見があったと思います。また、横浜における研修を通して、子ども達の持つ資質や可能性というものは、保育者自身の考え次第で変わるということを学んだのではないかと思います。これからの山県市の将来を考える上で、保育や子育て環境がとても重要であることは間違いありません。私は、「保育からまちを豊かにすることができる」といっても過言ではないと思います。最後に、これからの山県市のどの保育園も“質の高い保育”を行い、子ども達ものびのび、すくすくと成長を遂げ、明るい未来を描ける街として発展していくことを心から願っております。

一般社団法人 もあなキッズ環境教育研究所
理事長　関山　隆一

2021年度 岐阜県山県市遠隔地研修報告書

2022年3月22日発行
発行：岐阜県山県市
制作・編集：NPO法人 もあなキッズ自然楽校
印刷：株式会社 大川印刷